

## 概要

良好な栄養状態—健康的で、バランスのとれた、かつ十分な食事—は生死を分ける問題です。また生き抜くか成長するかの違いとなります。

それは生涯を通して病気から守るための健康的な免疫力システムにとって必要不可欠なことです。そして、国の包括的かつ持続可能な開発にとってもきわめて重大なものです。

しかしながら、栄養不良の取組に関する進歩はあまりにも遅すぎます。何百万人もの子どもたちは彼らが誰であり、どこに住むのかといった理由で十分な栄養を得る機会を逃しています。その子どもたちは民族や障害を理由に差別され、彼らの親の所得の欠如、もしくは家や故郷から離れることを余儀なくされていることを理由に排除されているのです。

この報告書では、このような忘れられた子どもたちのことを伝えています。そして最後の一人の子どもまでが、必要な栄養を得ることを保証するために何が必要かを提示しています。もし私たちが真剣に、栄養不良の子どもがいない世界をつくっていくことを考えるのであれば、子どもたちが直面している差別や排除に取り組まなくてはなりません。

セーブ・ザ・チルドレンは最後の一人の子どもまでが生き抜き、成長することを保証するために新しいキャンペーンを立ち上げました。わたしたちは革新的な解決策を考え出し、世界規模のプログラムを実行することで、排除された子どもたちへ直接的に働きかけます。栄養のための資源の増大を提唱します。栄養不良と差別の存続を許す法律、規範、政策に挑みます。そして世界の忘れられた子どもたちと共に、彼らのために、キャンペーンをします。

行動を起こす必要性は今まで以上により切迫しています。私たちの新たな調査では、2030年までに栄養不良を根絶するというグローバルなコミットメントが存在するにも関わらず、現在の傾向では発育不全の5歳以下の子どもたちは世界的に1億2,900万人にもものぼるだろうと示されています。そして、今から100年後には、劇的な変化がなければ栄養不良の子どもたちは世界で数百万にも上るといわれています。

## 栄養不良—進歩と展望

**世界は低栄養への対処に関して進歩を遂げています。発育不全の子どもの数は1990年より**

3分の1以上減少しました。

**しかしその進歩は十分に早いものではありません。**毎年 310 万人の子どもたちは低栄養が原因で亡くなっています。栄養不良は世界的に日々発生する緊急事態です。今日、世界ではすべての5歳以下の子どもたちの4分の1に近い人数—1億5,900万人の子どもたち—が発育不全です(1)。食糧不足、健康不良、もしくは非衛生的な環境は、そのような子どもたちが、彼らの最大限の可能性を引き出すのに必要な栄養素の恩恵を得ていないことを意味しています。

**劇的に異なるアプローチなしでは、世界が栄養目標に到達することはありません。**世界は発育不全を2025年までに40%削減し、2030年までにあらゆる形の栄養不良を取り除くことを約束しています。しかしもし私たちがこのままでいれば、それが叶うことはありません。世界が劇的に方針を変えなければ栄養不良は存在し続けます。

栄養不良の子どもが16年以上で3,000万人削減したことは(2)、いくらかの進歩を表している一方、それは受け入れがたいほどに遅いのです。**2030年までに、1億2,900万人の発育不全の子どもたちがまだ存在することになります。**低所得国は、この世界的負担の4分の1の割合を占めます。

それ以上に、次の世紀の始まりには、一栄養不良を終わらせる最終期限の70年後—依然として2,400万人の発育不全の子どもたちがいることになるでしょう。協力による変化なしでは、世界は、子どもの可能性を無駄にし、子どもの教育の機会・生きる機会・収入と生産性を破壊する、世紀を経ることになるでしょう—そしてそれは世界経済にとって、深刻な結果をもたらすことになるでしょう。

**同時に、過体重の子どもの数も増えています。**世界には今日、5歳以下の過体重の子どもは4,100万人います—20年前より1,000万人増えました(3)。これはますます高い疾病率と死亡率につながり、世界経済にとって大きな影響をもたらすであろう憂慮すべき傾向です。しかしそれは覆すことができ、また覆すべき傾向なのです。

## 進歩はどれほど平等だったか？

**栄養不良の割合は国によって著しい違いがあります。**利用できるデータの全115のうち44の途上国では、30%かそれ以上の子どもたちが発育不全です。これらの国のうち3か国—

ブルンジ、エリトリア、東ティモールでは、半分以上の子どもたちが発育不全で、13 の国では、2000 年より問題が悪化しています。

**ほとんどの途上国では取り残されたグループの子どもたちの栄養不良を取り除くには、優良グループやその他のグループよりもずっと長くかかるだろうと予測されています。世界が 1990 年より経験してきた不平等な進歩が続いているのです(4)。**

**私たちは、進歩は可能なことだと知っています。しかし、栄養に関する進歩は、すべての子どもたちを巻き込むことにたびたび失敗しています。ガーナ、ペルー、そしてコンゴ共和国では近年発育不全の大きな削減がみられています。しかしながら、ガーナの農村地域を除くと、これらの国の不利なグループはより有利なグループに遅れを取っており、ますます格差が広がっています。特にペルーでは、地域間、農村部と都市部の間、そして民族間で発育不全の割合における不平等が広がっています。**

なぜ、ある人々はほかの人たちよりも栄養不良になりやすいのか？

**差別や除外がこれらの不平等を作り上げることが助長しているのです。子どもの住む場所が教育や食糧へのアクセス、彼らの文化的・社会的活動、家族の所得—そして最終的な栄養レベルを大きく左右しています。私たちのデータは、農村地域に住む子どもたちは都市部に住む子どもたちより平均して 1.37 倍、栄養不全になる傾向を示しています(5)。現実では、これらの世界的な平均値は農村地域と都市部にある大きな不平等を隠しているのです。**

家庭の収入は子どもの栄養に顕著に影響します。したがって、家庭の収入別に 5 つのレベルに分けた場合、最貧困の家庭の子どもたちの発育不全と消耗症の割合は最も裕福な家庭の子どもたちよりかなり高いことは、驚くことではありません。途上国や地域では、全家族のうち最も貧困な 20% の家庭に育つ幼い子どもたちは最も裕福な 20% の家庭で育つ子どもたちの 2 倍以上も高い確率で 5 歳の誕生日を迎える前に亡くなります(6)。

世界的な栄養不良の問題を悪化させているのは、15 か国に干ばつをもたらし、6,000 万人以上に被害を与えた史上最強のエルニーニョ現象です。暴力と迫害は、第二次世界大戦以来最悪の難民危機を助長しています。人々は家を追われ、生きるのに最低限必要なものを得ることさえますます難しくなっています。

57 か国が参加した SUN (Scaling Up Nutrition) 運動(7)と 2030 年までにあらゆる形の栄

養不良を終わらせるためのグローバル目標の合意によって、栄養不良に取り組むコミットメントが世界中でいまだかつてない程大規模なものになっている一方、これらのグローバルな傾向が問題をますます切迫したものになっています。

## 排除はいかに栄養不良の一助となっているのか？

栄養不良を促進するものはよく知られています。それらは、子どもの食事摂取、健康、世帯の食糧安全保障、医療ケアの習わし、人々の住む場所のより広い健康環境、貧困、政治的状況、そして気候変動のような環境要因を含みます。

これらは、相交わり、重複することで、ある特定のグループの子どもたちの排除を悪化させています。たとえば、遠隔地域に住む子どもたちは医療ケアにアクセスできないかもしれません。そのような地域に住む障害のある子どもたちは、なおのこと必要なサービスを得られないかもしれません。特にもし彼らが特別な支援を必要としている場合はなおさらです。

## どのようにすべての人々のための進歩を加速させるか

国家は、子どもの生存の権利の尊重、保護、実現のため、国際法に記された義務を負っています。「子どもの権利に関する条約」は国家に対して、子どもの死を防ぐためにできるすべてをしなければならぬ義務を課しています。この義務を果たすために、国家は栄養不良に取り組まなくてはなりません。しかし、多くの国では、子どもの生存を促進する法的枠組みに欠け、あったとしても、しばしば実行に移していません(8)。

政府は、数えきれないほどのグローバルな栄養目標に署名しています。それらは歓迎すべきことですが、これらの目標はしばしばその国々の栄養に関する傾向や状況をもとにした計算よりも、むしろ政治的交渉の結果となってしまっています。したがって、世界保健総会の 6 つの栄養目標達成のための世界的な取組の進捗が遅れていることは、驚くことではありません。もし私たちが本当に実のある、衡平な進歩を見たいのであれば、**これらのグローバル目標は、各国が十分な予算と計画をもって、社会の全てのグループのために国家目標をどう達成するかを盛り込んだ国家目標に焼き直さなくてはなりません。**

経済成長は栄養の向上に貢献でき、それは低所得国では栄養不良と闘うための必要な武器

として見られています(9)。しかし、経済成長と栄養は複雑な関係にあり、成長だけでは栄養不良に取り組むには十分ではありません。ある特定の国の状況を評価した政策もまた、必要不可欠であり、直接的かつ表面下にある栄養不良の原因と、それらをどう克服するかの両方を理解するための国の状況分析を必要とします。

栄養不良に立ち向かうためのコミットメントは、すべての人の食糧と栄養の権利のための道義的・法的な原則をとっかかりとすべきです。食糧への権利を法的に認識している国々は、子どもの栄養に取り組む計画をより実行する傾向にあります(10)。エンパワメント、平等、普遍性、そして説明責任の価値は栄養不良を減らすための努力の中心にあるべきです。

マルチセクターでの取り組みによって栄養不良に対する総括的な貢献のできる政策は、子どもに配慮した社会的保護、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、水・衛生の向上、教育とレジリエンスの構築、そして食糧安全保障と生計の向上を含みます。

**行動の 10 年が栄養不良を終わらせるために必要です(11)。**第二回目となる「成長のための栄養」イベントは、最後の一人の子どものために栄養不良を終わらせることを優先させ、投資するための重要な機会です。

**セーブ・ザ・チルドレンは各国政府に対し、以下のことを提言します。**

1. 以下の項目を理解するためにマルチセクターでの情報分析に着手すること。
  - 栄養不良の傾向とそれに関する国内の促進材
  - 栄養不良に立ち向かう上での最善の政策と活動
  - 最も排斥され、栄養不良に陥りやすいグループの人々と彼らの直面する障害
2. グローバル目標に沿い、国家状況と傾向をもとにした、すべての社会グループのための明確な目標を含む国の栄養目標の設定。
3. 全ての社会グループにとって、それらの目標を達成するためにふさわしい政策と計画の設定。栄養不良がすべての社会グループで削減されることを保証することで、「誰一人取り残さない戦略」の基本を形作るべきです。
4. 状況分析から戦略・政策の設計から実行、モニタリング、そして評価までの栄養不良に取り組む計画や政策の過程を通して、関係したセクターやステークホルダー—ドナーや研究者、市民社会、そしてビジネス界を含む—と共に取り組むこと。
5. 十分な財源をきちんと保証すること。すべての政府は国民の栄養に投資すべきです。加えて、ドナーは持続可能な開発の担い手および決定者として栄養を優先すべきです。

## Unequal Portions Executive Summary 脚注翻訳

- (1) UNICEF, WHO, World Bank Group, 2015. Levels and trends in child malnutrition. Joint child malnutrition estimates. [http://www.who.int/nutgrowthdb/jme\\_brochure2015.pdf?ua=1](http://www.who.int/nutgrowthdb/jme_brochure2015.pdf?ua=1)
- (2) 2014年の発育不全児1億5,900万人から2030年までに1億2,900万人に減るとされる。
- (3) UNICEF, WHO, World Bank. Levels and trends in child malnutrition. UNICEF-WHO-World Bank joint child malnutrition estimates. UNICEF, New York; WHO, Geneva; World Bank, Washington DC: 2015.
- (4) 同上
- (5) 人口保健調査 (DHS) に基づく、セーブ・ザ・チルドレン独自の集団と不平等データベース (GRID) による。
- (6) この段落のデータは UNICEF が行った全国の世帯調査分析に基づく。[www.childinfo.org](http://www.childinfo.org) より入手可能。
- (7) 栄養拡充イニシアティブ、または SUN 運動は各国政府、市民社会、ドナー、ビジネス界などを、栄養改善のための集団的な取組に結び付ける。
- (8) Save the Children, 2011. Why Law Matters? Save the Children International. [http://www.savethechildren.org.uk/sites/default/files/docs/Why\\_Law\\_Matters\\_1.pdf](http://www.savethechildren.org.uk/sites/default/files/docs/Why_Law_Matters_1.pdf) より入手可能。
- (9) Vollmer 等 (2014)、Headey, D 及び Chiu, A (2011)、Heltberg (2009)、Wang, X 及び Taniguchi, K (2002)らは栄養不良を減らすためには経済成長が必要だが、それだけでは不十分であると主張している多くの提唱者の一部である。これと同じ結論は FAO (2012)も提唱している。
- (10) (3)と同じ
- (11) 2016年4月1日、国連総会は2016年から2025年を「栄養のための行動の10年」と宣言した。